

須恵器生産豪族の氏寺

須恵廃寺



須恵廃寺北方建物土壇（写真中央）

岡山県史によると瀬戸内市内には、長船町服部に「服部廃寺」、長船町西須恵字寺村に「須恵廃寺」、邑久町山田庄に「半田廃寺」の三つの寺院跡があります。服部、須恵の寺院は飛鳥・白鳳期に建立され、半田の

寺院は奈良時代に建立されました。須恵廃寺は、土壇の残っている所の字名が「大日」であることから「大日堂址」とも呼ばれていました。寺院の立地場所の付近には、五世紀末ごろの前方後

円墳「築山古墳」が北500メートルほどの所にあり、東から南にかけての山麓には6世紀から8世紀の須恵器の窯跡が十数基、北西の桂山の南東山麓に30基ほどの古墳があります。一九八七年に部分的な発掘調査が行われて、現在残っている



唐草文軒平瓦と復弁八葉蓮華文軒丸瓦（出土品）

鮮半島からの直接的関係によるものが考えられます。以上のような建物の検出状況や瓦片の出土、地形などから一辺100メートルから150メートルの範囲が寺域であったと思われる7世紀中ごろから後半にかけて造営された市内最古の寺院です。

土壇の北側と西側で建物跡などが確認されています。これらのほかには、建物は確認されませんでした。土壇の南方の水路改修の際に多くの瓦が採集されたり、土壇東方から軒丸瓦片が採集されたりしています。出土した瓦片の中で軒丸瓦の特徴が、畿内中枢部のいわゆる主流派の瓦とも非主流派の瓦とも異なり、朝

この寺院の造営は、6世紀後半から主たる産業として営まれていた須恵器生産を基盤とする地方豪族が大きく関与していたと考えられます。最後に、この須恵廃寺周辺は古代の須恵郷で、この地域の豪族の権威の象徴であると同時にシンボルでもあったと考えられます。

【参考文献】

- ・岡山県史 原始・古代I
- ・長船町史 史料編（上）
- ・邑久町史 考古編

ジャンプ

ステップ

ホップ

このコーナーは、生涯学習に生き生きと取り組む皆さんを紹介し、皆さんも仲間入りしませんか。

「コミュニケーションする楽しさを味わう」 「手話サークル長船名刀の会」

長船町公民館で、「手話サークル長船名刀の会」の皆さんが、楽しそうに手話で話をしていきます。会員20人。毎回いろいろな取り組み方で、手話を学習。互いに目を見て、表情豊かに、手や腕を動かして意志を伝達します。



和気あいあいと和やかな雰囲気の手話サークルの皆さん

聴覚障害者の抱える問題を理解し、聴覚障害者と健常者の交流を深めるという目的を持ちながら、コミュニケーションする楽しさを習得します。身近にいる聴覚障害者とコミュニケーションを取りたいと手話を始めた健常者の皆さんは、サークルに来る度に新しい手話を覚えて帰ります。また、「サークルに来ていて時が、一番楽しい」という聴覚障害者の皆さん。講師の見

島嘉彦さん（69歳・邑久町本庄）は、「みんな、手話がとても上手になってうれしい。いつか手話通訳士になつてほしい」と話します。旅行や食事会、クリスマス会と交流の場も増え、和気あいあいと楽しそうな皆さんでした。

★活動日時 第1～4金曜日 午後7時30分～9時

★活動場所 長船町公民館

★年会費 年2、000円

★代表 出井里子さん

☎0869-261-3662



手話で話しかける表情が豊かです

基本を忠実に

「裳掛剣道スポーツ少年団」

裳掛小学校体育館で大きな声を出し、気合十分に練習に励む裳掛剣道スポーツ少年団の皆さん。小学校1年生から中学生までの団員20人は、指導者のアドバイスを受けながら、素振りや打ち込みなど基本を中心とした練習を入念に繰り返します。

団のモットーは「基本を忠実に」。悪い癖が付かないように、そして大人になっても継続してできるように、基本を厳しく教えます。指導者の正宗明さんは「みんなには、『練習で泣い



県大会、中国大会で優勝を重ねる裳掛剣道スポーツ少年団の皆さん

て、試合で笑え」と言っている。練習で苦しめば、自然と結果が付いてくる」と話します。

「みんな仲が良く協力して、2月に行われる錬成大会で優勝したい」と小学生キャプテンの山根由希君（12歳・邑久町虫明）。

ただ今、団員募集中です。基本的な礼儀も身に付く剣道を、皆さんも始めてみませんか。

★活動日時 ▽月曜日 午後6時30分～7時30分 ▽火・土曜日 午後7～9時

★活動場所 裳掛小学校体育館

★年会費 月1、500円

★代表 田中正人さん

☎0869-251-1357



鋭い掛け声とともに面を繰り出します